

# 信濃川大河津資料館友の会だより

## 川の物語発表会

11月22日(土)、“川の物語発表会”を行います。友の会会員の方から歌や踊り、研究成果などを発表していただきます。詳しくは別紙のチラシをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています！

※年度当初の計画では、午前の開催を予定していましたが事務局の都合により午後からとなりました。よろしくお願い致します。



昨年度の川の物語発表会の様子

## 友の会活動を考える会

12月13日(土)“友の会活動を考える会”を行います。第1部では新潟県立歴史博物館の山本哲也さんを講師にお迎えし、友の会のあるべき姿など講演いただきます。第2部ではトークディスカッションを行い、平成20年度の活動を振り返り、平成21年度の活動を考えます。気軽にイベントの内容や友の会の活動について話し合しましょう！

講座終了後には懇親会を行いますので、こちらもぜひご参加下さい！



平成20年7月5・6日のバスツアー梓川・上高地の様子

講座への参加を希望される方は、同封の葉書に必要事項を記入の上ご投函下さい。なお、定員60名に達し次第締め切らせていただきますのでご了承下さい。

## 友の会展覧会

皆さんの信濃川・大河津分水への想いを作品にして紹介してください！

期日：2月頃

会場：信濃川大河津資料館2階

内容：友の会会員の作品展。信濃川・大河津分水や郷土にまつわる絵画や俳句、書、工芸品などを展示します。

応募：12月28日(日)までに事務局へご一報下さい。作品やスケジュールについてご相談させていただきます。



平成17年度友の会展覧会の様子

# イベント報告

## バスツアー山古志

8月31日（日）に行われた“バスツアー山古志”では、中越地震によって被災した山古志へ視察に行ってきました。



参加者の皆さんから「大変勉強になった」「災害があったことを忘れてはいけない」という声が聞かれました。

## 大河津分水 俳句を楽しむ会

9月27日（土），“大河津分水 俳句を楽しむ会”を行いました。一人5句の投句を行い、最後に田村紅子先生より講評をしていただきました。



大河津分水を詠んだ句でも様々な表現があり、大河津分水にも芸術的な秋が訪れました！

## 大河津分水-クリーン作戦/サケまつり/友の会講演会

10月11日（土）に行われた講座の様子を紹介します。

クリーン作戦では資料館周辺のゴミ拾いを行いました。ゴミの量はそう多くはなかったですが、割れたビンやタバコの吸い殻などがありました。多くの皆さんが大河津分水を気持ちよく利用できるようにご協力をお願いします。



クリーン作戦の様子

サケまつりでは大河津分水でとれたサケをサケ汁にし、おにぎりと一緒にいただきました。会場からは“おいしい〜！”という言葉がたくさん聞かれました。食材は友の会会員の皆さんから提供していただきました。ごちそうさまでした！



サケまつりの様子

友の会講演会は、燕市長善館史料館館長の吉田勝さんより「長善館と大河津分水」と題してお話いただきました。長善館の教えや大河津分水建設に参加した長善館の卒業生について話していただきました。



友の会講演会の様子

## 今号の可動堰

洪水期により7月から9月まで工事を中断していましたが、10月1日より工事が再開されました。11月には堰柱底版部にコンクリートの大量打設が行われ、1日に約2,000~3,000 m<sup>3</sup>のコンクリートが打設されます。詳しい施工日、施工箇所については大河津可動堰情報館をご覧ください。

新可動堰完成に向けて、可動堰周辺の定点撮影を紹介します。



右岸堰軸から撮影  
(平成20年11月13日撮影)



右岸堰軸から近景を撮影  
(平成20年11月13日撮影)

# 国上山散策

10月25(土)、“国上山散策”を行いました。国上山山頂まで登り、良寛が暮らした五合庵や国上寺などを見学しながら、国上山を散策しました。朝日山展望台からは大河津分水も眺めることができ、参加者の皆さんから「楽しかった」「国上山も散策するのに良いね」という感想が聞かれました。

国上山散策は来年度開催を予定している「信濃川源流ツアー」の足試しを兼ねて行いましたが、いかがでしたでしょうか？



国上山散策の様子



## 信濃川大河津資料館からのお知らせ

### 企画展 速報 平成20年水害－地球温暖化と異常気象－

資料館では、企画展「速報 平成20年水害－地球温暖化と異常気象－」を11月下旬より開催する予定です。今年も相次いで発生した水害。その写真や地球温暖化の影響、信濃川流域の近年の水害の様子などを紹介します。詳しくは資料館までお問い合わせ下さい。



写真提供：新潟市  
新潟市内の浸水の様子



写真提供：関東地方整備局  
小貝川(利根川支流)の洪水の様子



### ハクチョウ飛来中！！

今年も大河津分水にハクチョウがやってきました！今シーズンは10月17日に最初のハクチョウが確認され、大河津分水で羽を休ませています。ハクチョウの観察は朝9:00までと夕方15:00以降がオススメです。3月中旬まで観察することができますので、ぜひ観察下さい！



平成20年10月17日撮影



## 庭先を流れる大河

友の会会員 杉本 俊哉

私の生家は、大河津分水の川っぶち。家の裏に出ると何枚かの田んぼを隔てて土手の桜並木が良く見える。

子どものころ、そこは近所の友達と遊ぶ格好の場所だった。大人たちから「危ないから川や用水路には近づくな」と言われ、最低限その言いつけは守りながらも、夏には虫取り網を持って走り回り、冬にはソリで土手の急な坂を駆け下っていた。

あの頃は毎年お盆になると、県外に住んでいた叔父が帰省してきた。魚取り網とバケツを手と一緒に家を出て、可動堰のすぐ下の水叩きの上で魚を捕まえたりした。そこはもちろん今は立ち入り禁止だが、当時はまだ大らかな時代だったのだろう。

そのように毎日眺め、遊んでいた川が、人力で造られた放水路だと知ったのは、物心が付いてからかなり後だったような気がする。川の流れ、土手の桜並木、昆虫や小動物など、幼い私にとって一番身近に自然を感じられる場所が、実は人工的に造られた空間であったことのギャップに大いなる戸惑いを感じた。

現在は、その場所で可動堰改築工事が進んでいる。一連の工事が完成したあかつきには、野生復帰した朱鷺をはじめとするさまざまな鳥たちが飛来し、魚が群れなす姿が見られるような自然と人の共生の場として、子どもから大人まで大勢の人々が集い、楽しめる場所になってほしいと願っている。



## 大河津分水に感謝

友の会会員 花岡 一子

旧巻町で生まれ育った私にとって川と言えば母の田舎の家の裏を流れる用水だった。夏休みには従兄達と蛙を餌にザリガニをバケツに山程釣り上げたものだった。それが楽しくて従兄が留守だったりするとがっかりしたものである。町中を流れる大きい川は西川と矢川。しかし当時は洗物などに川水の利用もして、手伝いや遊んでいた子供が時には転落するという悲しい事故もあった。母には川に近づくことは禁止されており、大きい川は恐かった。

昭和 49 年から分水に居住したが、小学生の娘と共に大河津分水へ見学に行く機会もあり、公園では親子お楽しみ会や、夏場の水量の少ない時など川で水遊びなどもした。

新しい洗堰が完成し、旧洗堰は文化遺産として残されたが、今又、新可動堰の工事が進んでいる。二百年以上も前から述べる一千万人以上の人々が命がけで遺業を達せられ、これからも安全の為に続けられているのである。桜並木の間に静かに立つ竣功記念碑に刻まれた青山土氏の言葉「万象ニ天意ヲ覚ル者ハ幸ナリ 人類ノ為メ国ノ為メ」はいつでも私の胸を熱くする。そして資料館前の治水紀功碑の何千字もの力強く刻まれた楷書の碑文はつい手で触れたい。先人の方々、そして今も工事に携わる方達のお陰で私たちは安心して暮らせることに感謝の意は忘れられない。野中才から堤防へ散歩に行くが、J Rの陸橋へかかる前、小川（用水？）にかかる石積のトンネルから眺める桜並木と、緑の陸橋が私の大好きな風景の一つである。新可動堰が完成すると、分水の流れが大きく変わるとのこと。対岸の工事現場を見やりながら数年後を楽しみにしている。

次のご指名は吉田幸策さんと松井光子さんです。